

■技術評価基準

以下の評価項目について、提案書及びヒヤリングを通じて評価する。

分類	項番	評価項目	配点	仕様書関連No
① 基盤			295	
	1	データセンターと本学に設置の全ネットワーク機器を統合的に管理できる構成になっていること。	30	1
	2	仮想基盤で稼働する各種仮想サーバの利用状況や機能追加、新規仮想サーバ追加にあわせて、物理サーバのリソースの柔軟な変更や追加に対応できること。VDIに関しては必要に応じて、仮想デスクトップの同時接続台数を追加できる構成になっていること。	50	1.2.1.2、3.3.4.4
	3	ストレージの各種用途(仮想サーバ基盤、仮想デスクトップ基盤、データベース、ファイルサーバ)の実行領域を柔軟に変更、融通できること。また、各領域のストレージの管理が統合的に行えること。	20	1.2.3
	4	遠隔サイトへのバックアップ時間が業務に支障ない時間で行えることの根拠が示されていること	10	1.2.3、1.2.4
	5	プライマリストレージや遠隔サイト用バックアップストレージから復旧するための手順が示されていること。また、動作確認ができること。	20	1.2.3、1.2.4
	6	ストレージの移行作業が簡便で、移行後のデータの保証の確認ができること。	20	1.2.3
	7	HUNETで提供するすべての大学情報サービスの利用時に利用者ブラウザ画面が、Firefox、Google Chromeにも対応可能なこと。	25	1.5.3
	8	Office365のメール機能を使わない場合のメールアドレス数が追加されても、メールセキュリティ機能が享受できること。	20	1.1.21
	9	メールの配信遅延の目標値が小さいこと。	10	1.1.21.3
	10	ファイアウォールからのログ分析によるサマリレポートが本学の想定項目も考慮して、充実していること。	10	1.1.20(14)
	11	IPSからのログ分析によるサマリレポートが本学の想定項目も考慮して、充実していること。	10	1.1.20(15)
	12	ホスティング機能にサブドメインの名前解決の機能を有するか。	10	1.3.15(5)
	13	認証基盤の利用者機能を使用する利用画面の操作性が優れているか。	10	1.5.3
	14	年度始めなど多数が同時に学生ポータルサイトや大学情報サービスシステム、認証基盤の利用者認証機能を使うときの性能を確保する対応があるか。	20	1.5.3、4.4、4.10
	15	更新による電子メールサービスの停止時間が1日以内のできるだけ短時間であること。	20	1.1.21、1.3.2、1.3.3、1.3.4、1.3.5、1.3.6
	16	コンテンツの移行方法、DNSやメールの設定方法などホスティングの利用方法を利用者にわかりやすく示されているか。	10	1.3.15
② 教育			120	
	1	仮想デスクトップ一台当たりのCPU・メモリの割り当てが十分であること。	15	3.3.4.4
	2	連続した時限で教員/学生が異なる授業で利用することを考慮した教室環境の運用となっていること。	10	3.3.4.4
	3	Windows環境とLinux環境の間でファイル転送が簡単にできること。	10	3.3.4.4
	4	実習室の端末が画面転送処理のためのグラフィックコントローラーもしくは専用ハードウェアを実装しており、メモリの容量が十分であること。	10	3.3.4.5
	5	貸し出し用ノートPC型端末は、ソフトウェアを快適に利用可能なメモリを搭載し、満充電で日中の利用が可能なこと。	10	3.3.4.6
	6	学生一人当たりのファイル記憶容量が十分であること。	35	3.3.4.7
	7	eラーニングシステムをモバイル端末(スマートフォン、タブレットなど)から操作・閲覧できること。	10	3.3.4.8
	8	eラーニングシステムにおいて、グループでの議論、およびグループ単位でのレポート提出ができること。	10	3.3.4.8
	9	現行のe-learningシステムの教材を移行する方法を利用者にわかりやすく示すこと。	10	3.3.4.8
③ 遠隔			20	

	1	402講義室のシステム操作端末がタッチパネル式であること。	10	3.4.4.2
	2	プロジェクター5式(404講義室3式、402講義室2式)の有効光束、解像度が十分に高いこと。	10	3.4.4.1
④ 事務			155	
	1	将来のシステム拡張(外部システムを含む)に備えた提案をしている場合。	5	4
	2	ガイダンス等での学生による一斉操作においても、十分な性能が確保されると判断できる場合。	5	4
	3	本学の運用に即した独自の運用マニュアルを提供する場合。	10	4
		■基本要件		4.2
	4	時間のかかる業務プロセスが他のプロセスに影響を及ぼさない機能をもつ場合。	5	4.2
		■学務システム共通要件		4.3
	5	ダウンロードについては、AND、ORや括弧による条件や、以下の条件指定が可能である機能を有する場合。 (～と等しい、等しくない、以上、超、以下、未満、～と部分一致)	5	4.3
	6	登録名を指定するだけで、前回と同じ抽出項目でダウンロードできる場合。	5	4.3
	7	使用頻度が高いバッチ処理は、初期値の埋め込み等により簡易な操作で実行できる手段を有すること。	5	4.3
	8	メールアドレス、ID等個人情報を入力する際に利用者認証と入力内容の暗号化のための具体的な提案がある場合。	5	4.3
		■教務システム		4.4
		<input type="checkbox"/> 学生管理		4.4.1
	9	職員は、学生が自身の自身変更申請を行う画面について、入力必須項目を指定できること。	5	4.4.1
		<input type="checkbox"/> 履修管理		4.4.4
	10	「履修確認期間」「履修取消期間」の履修修正・取消については、学生がシステムから申請でき、職員の承認により有効な履修となること。	5	4.4.4
	11	学生が他学科開設科目の履修を申請した場合、学生の所属する学科の教務委員及び当該授業科目の代表教員がシステム上で承認をしなければ履修登録できないようにすること。	5	4.4.4
	12	学生毎に、履修登録に対する職員からの連絡事項を登録できること。 学生は職員からの連絡事項を履修画面および履修登録科目確認通知書上で確認できること。	5	4.4.4
		<input type="checkbox"/> 成績管理		4.4.5
	13	学生毎の奨学金推薦時及び適格認定時に必要となる、累積GPA、修得年度別「優(秀及び優)、良、可」修得単位数が出力できること。	5	4.4.5(41)
		■就職システム		4.5
		<input type="checkbox"/> 企業情報管理・求人情報管理		4.5.1、4.5.2
	14	指定した企業の企業基本情報の任意で選択した項目などをCSV形式などのデータとして出力できること。	5	4.5.1、4.5.2
		<input type="checkbox"/> 学生情報管理		
	15	進路内定・合格情報を区分「決定」で登録した場合に、以下の情報が連動して更新されること。また、決定情報はCSVなどの形式で入出力可能なこと。 ・決定先企業情報(企業名、本社所在地、業種)、職種、内定日、状況(状況) ・合格先大学院名、前期・後期課程、専攻名、所在地、合格日、状況(決定) ・その他(創作活動、留学・進学予定、資格取得、翌年度受験、非常勤講師、非正規雇用等、進路登録無、その他)、状況(決定)	5	4.5.3
	16	本学の大学院に進学した場合に、どの専攻に進学したかを管理できること。 また本学以外の大学院に進学した場合に、大学名等の詳細情報を登録できること。	5	4.5.3
		■入試システム		4.6
		<input type="checkbox"/> 志願者受付		4.6.2
	17	志願者情報に教務システムで保持する学籍番号が表示されること。	5	4.6.2
		■証明書発行システム		4.7
		<input type="checkbox"/> ソフトウェア要件		4.7.2
	18	仮学生証の発行時にのみ、「教務グループに持参すること」などの注意文を表示できること。	5	4.7.2.1
		■保健システム		4.8
		<input type="checkbox"/> 共通要件		4.8.1

	19	4.8.1(7)について、一画面(タブ切替)で参照・変更できること。	5	4.8.1(7)
		□各機能における要件		4.8.2
	20	申込票、画像等をスキャナで取り込み、相談者と関連付けて保存し、参照できること。	5	4.8.2.3
		■教員システム		4.9
		□帳票出力機能		4.9.6
	21	ファカルティレポートを出力できること。(様式については本学のホームページを参照すること。)	5	4.9.6
		■ポータルシステム		4.10
		□施設予約機能		4.10.9
	22	講義室、講堂、サテライトキャンパス、会議室について、予約時の重複が発生した場合には、予約ができない旨のエラー出力をし、連携後に予約が行えたかどうかの状況確認ができること。	5	4.10.9
	23	施設予約する際には、一括予約、予約禁止期間設定についてカレンダーから登録できること。	5	4.10.9
		□教室変更情報		4.10.12
	24	教室変更の備考情報がデジタルサイネージに表示されること。	5	4.10.12(10)
	25	登録した授業連絡情報が、デジタルサイネージに表示されること。	5	4.10.12
		■データ連携システム		
	26	学籍番号とは別の番号を設定し、同一人物の場合は当該番号を同一とすること。この番号は、番号だけからは個人を容易に特定できないような値とするとともに、教務システム・入試システム・就職システムと連動できるよう各システムで同一の番号が付与できるようにすること。	20	4.12.3(1)
		■出席管理システム		4.17
	27	将来的に、固定又は携帯端末及び学生証による出席情報の取得にも対応できること。	5	4.17.1
⑤ 図書			50	
	1	業務画面の操作性について、画面上に操作結果と次にすべき操作内容の表示が可能なこと。例えば、貸出画面であれば、画面を立ち上げると「利用者IDを入力してください」と表示され、入力後は「資料IDを入力してください」と作業者への次操作が表示可能なこと。	5	5.2.1
	2	業務システムの画面や出力帳票のレイアウトを柔軟に変更できること。	5	5.2.1
	3	電子ブック、電子ジャーナルのリンク切れURLのチェックが可能なこと。	10	5.2.4.1(32)
	4	ILL依頼先(受付候補館)の選定の際に、館ごとに依頼中の件数を一覧画面で表示できること。	5	5.2.6.1
	5	ILL依頼先(受付候補館)の選定の際に、館ごとの複写料金、貸出制限冊数などのポリシー情報を一覧画面で表示できること。	5	5.2.6.1
	6	ILL依頼先(受付候補館)の選定の際に、館ごとの参加組織情報およびメモを一覧画面で表示できること。	5	5.2.6.1
	7	OPACにおいて仮想的な書架を設定でき、仮想書架の資料の多様な表示が可能なこと。	5	5.2.8.1
	8	BOOKデータASPサービスと連携し、図書の目次データを検索できること。	10	5.2.8.1(30)
⑥ 常駐			35	
	1	本学と同等規模の大学での常駐経験のあるSE技術者を常駐させる場合。	35	8.2.1
⑦ システム間連携要件			15	
	1	既存システムへの影響および対策について具体的に検討している場合。	10	
	2	データ連携を一元的に管理する独立したシステムを有する場合。	5	
⑧ 信頼性要件			20	
	1	障害発生時には業務に影響を与えないための具体的な措置が講じられている場合。	10	
	2	ヒューマンエラーを防止する施策を講じている場合。	10	
⑨ セキュリティ要件			20	

	1	情報漏洩、不正利用、不正アクセス防止等の十分な措置が講じられている場合。	20	
㉔ データ移行・構築要件			50	
	1	システム導入時に新システムの稼働が容易にできるような具体的な提案がある場合。	20	
	2	システムの停止期間の短縮等システム更新にかかる業務への影響が少ない場合。	10	
	3	利用者の負担が軽減されるよう十分なメールの移行期間が考慮されている場合。	5	
	4	システム移行時の利用者(学生、教職員)の操作等の支援が考慮されている場合。	15	
㉕ プロジェクト体制			65	
	1	顧客視点の設計・開発力を有していると認められる場合。	10	
	2	プロジェクト遂行組織力および運用保守体制が十分に備わっていると認められる場合。	15	
	3	納期が確実に厳守されると判断される場合。	30	
	4	本調達の整備目的や目標を理解し、十分な実現性を備えている場合。	10	
㉖ 運用保守			45	
	1	各システムの運用保守に十分な体制の拠点が本学近隣にあり、各システムのサポート組織に対して密なコミュニケーションが取れるように配慮された組織構成である場合。	20	
	2	入試等重要な業務処理実施の場合には、システム担当SEが立ち会いを行う場合。	10	
	3	本システムの稼働準備段階から稼働終了時まで継続して、関連業者や学内関係者との協議参加、作業支援を行なう場合。	10	
	4	LMSやYouTubeなど学外のコンテンツ配信システムへ登録する動画コンテンツのフォーマット変換等コンテンツ編集に対応できる場合。	5	
㉗ 実習室整備・演出			10	
	1	情報処理センター401実習室、502実習室、および、その周辺関係部分において、学生が快適に利用でき、さらに受験生候補の高校生、保護者、および高校教員にも魅力ある教育環境と感じられる整備・演出の工夫があること。	10	9.1
満点			900	